

目 次

第1章 建築物の環境衛生行政

1-1 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」（略称：建築物衛生法） のあらまし	2
1-1-1 建築物衛生法の制定の背景	2
1-1-2 建築物衛生法の目的	2
1-1-3 特定建築物とは	2
1-1-4 防除の対象になる動物	3
1-1-5 建築物環境衛生管理技術者	3
1-1-6 登録制度	4
1-1-7 建築物環境衛生管理基準	5
1-1-8 維持管理の方法に関する基準	5
1-1-9 建築物環境衛生維持管理要領	6
1-1-10 建築物における維持管理マニュアル	6
1-2 ねずみ昆虫等関係法規	7
1-2-1 食品衛生法	7
1-2-2 学校保健安全法	7
1-2-3 学校給食法	8
1-2-4 労働安全衛生法	8
1-2-5 官公庁施設の建設等に関する法律	8
1-2-6 建築基準法	8
1-2-7 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）	9
1-2-8 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）	9

第2章 防除作業従事者の責任と任務

2-1 防除作業監督者と防除作業従事者	12
2-2 防除作業従事者の責任と任務	12
2-2-1 法令・規則の遵守（コンプライアンス）	12
2-2-2 インフォームド・コンセント（事前説明）	13
2-2-3 調査する技術	13
2-2-4 報告、提案する技術	13
2-2-5 薬剤、機材を正しく用いる技術	13
2-3 サービスマンとしての心得	14
2-4 日常的な業務実施の心得	14

2-4-1	事前準備	14
2-4-2	作業車による移動	15
2-4-3	現場での心得	15
2-4-4	作業実施後の心得	16
2-4-5	報告書作成の心得	17

第3章 建築物構造や設備とネズミ・昆虫等

3-1	建築物と有害生物	20
3-2	建築物内部で生息する有害生物	20
3-2-1	ネズミ	20
3-2-2	ゴキブリ	22
3-2-3	チョウバエ	23
3-2-4	チカイエカ	25
3-2-5	ハエ・コバエ類	26
3-2-6	その他の害虫類	26
3-3	建築物外部から侵入する有害生物	27
3-3-1	走光性侵入昆虫	27
3-3-2	歩行性侵入節足動物	27
3-3-3	その他	27

第4章 ネズミ・害虫防除概論

4-1	ネズミ・害虫防除の必要性	30
4-2	防除とはどのようなことをいうのでしょうか	31
4-3	IPM (Integrated Pest Management (総合的有害生物管理))	31
4-4	ペストコントロールオペレーター (PCO : Pest Control Operator) の役割	32
4-5	ネズミ・害虫防除の方法	32
4-5-1	環境的な対策	32
4-5-2	施設改善による対策	33
4-5-3	薬剤による対策	33
4-5-4	器械・器具による対策	34
4-5-5	生物を利用する対策	34
4-6	ネズミ・害虫防除の進め方	34
4-6-1	IPMで行うべきこと	35
4-6-2	進め方の基本	35
4-6-3	生息実態調査	36
4-6-4	実施計画	36
4-6-5	防除作業	36
4-6-6	効果判定	37

4-6-7	事後処理	37
4-6-8	報告	37
4-6-9	維持管理水準	37
4-6-10	HACCP（ハサップ）と IPM	37

第5章 殺鼠剤の種類と使用法

5-1	殺鼠剤とは	40
5-2	殺鼠剤に必要な条件	40
5-2-1	毒力	40
5-2-2	喫食性	40
5-2-3	安全性	41
5-3	殺鼠剤の長所と短所	41
5-4	殺鼠剤の成分	41
5-4-1	急性殺鼠剤	41
5-4-2	抗凝血性殺鼠剤	42
5-5	殺鼠剤の剤型	43
5-6	殺鼠剤の抵抗性	43
5-7	忌避剤	44
5-8	殺鼠剤の安全使用	44
5-9	事後処理	44

第6章 殺虫剤の種類と使用法

6-1	殺虫剤の意義と役割	48
6-2	法律上の位置づけ	48
6-2-1	医薬品・医薬部外品の殺虫剤	49
6-2-2	動物用医薬品・医薬部外品の殺虫剤	49
6-2-3	農業用の殺虫剤	49
6-2-4	生活害虫用殺虫剤	50
6-2-5	シロアリ駆除用殺虫剤	50
6-3	殺虫剤の名称	50
6-4	殺虫剤の毒性	50
6-5	殺虫剤の有効成分	51
6-5-1	塩素剤	51
6-5-2	有機リン剤	51
6-5-3	ピレスロイド剤	52
6-5-4	カーバメイト剤	52
6-5-5	昆虫成長制御剤	52
6-5-6	その他の有効成分	52

6-5-7 忌避剤	52
6-6 殺虫剤の効力	53
6-7 殺虫剤の剤型	54
6-8 処理方法	55
6-8-1 残留処理	55
6-8-2 毒餌処理	55
6-8-3 ULV 処理	56
6-8-4 煙霧処理	56
6-9 殺虫剤使用上の注意	56
6-10 殺虫剤の効果が上がらない理由	56
6-11 殺虫剤の廃棄方法	57

第7章 防除に使用する機器類

7-1 調査用器具	60
7-1-1 照明器具	60
7-1-2 捕獲用具	61
7-1-3 顕微鏡	64
7-1-4 その他の調査器具	65
7-2 安全器具	67
7-2-1 防護用器具	67
7-2-2 事故防止用の器具	68
7-3 防除用機器	69
7-3-1 散布（散粉）用機器	69
7-3-2 捕獲器具（トラップ）	73
7-3-3 配置器具	75
7-3-4 その他の防除機器	76

第8章 防除作業の安全及び衛生

8-1 建築物ねずみ昆虫等防除業の労働災害の現状	80
8-2 健康管理	80
8-3 安全に対する心構え	81
8-4 薬害事故防止	81
8-4-1 薬剤の保管の方法と目的	81
8-4-2 薬剤の調整時・使用時の注意事項	81
8-4-3 作業者の衛生管理	82
8-4-4 中毒時の対応	83
8-4-5 人や環境への配慮	83
8-5 火災事故発生防止	85

8-6	作業による従事者の事故防止	86
8-7	汚損・破損防止	87
8-7-1	薬剤による影響	87
8-7-2	作業による影響	88
8-8	交通事故防止	88
第9章 ネズミの生態と防除		
9-1	種類と生態	92
9-1-1	建築物に生息するネズミ（家ネズミ）	92
9-1-2	生態	92
9-1-3	被害	93
9-2	対策の進め方	95
9-2-1	生息調査法	95
9-2-2	具体的な対策	98
9-2-3	事後処理	101
9-2-4	効果判定	101
9-3	維持管理水準	102
第10章 ゴキブリの生態と防除		
10-1	種類	104
10-1-1	主なゴキブリの形態的特徴	104
10-2	生態	105
10-2-1	生活史	105
10-2-2	生態と習性	106
10-3	対策の進め方	107
10-3-1	事前調査	107
10-3-2	防除計画	110
10-3-3	防除方法	110
10-3-4	効果判定	111
10-3-5	報告	112
10-4	維持管理水準	112
第11章 カの生態と防除		
11-1	カの種類と生態	116
11-1-1	主な種類	116
11-1-2	生態と習性	116
11-2	対策の進め方	117
11-2-1	発生種の調査	117

11-2-2	防除方法	118
11-2-3	処理に当たっての注意事項	119
11-2-4	効果判定	119
11-3	維持管理水準	119
第12章 ハエ・コバエの生態と防除		
12-1	種類と生態	122
12-2	対策の進め方	124
12-2-1	発生種の調査・同定	124
12-2-2	防除方法	124
12-2-3	処理に当たっての注意事項	125
12-2-4	効果判定	125
12-3	維持管理水準	125
第13章 ダニの生態と防除		
13-1	ダニの種類	128
13-1-1	ダニの生態	128
13-1-2	ダニの問題点	131
13-2	対策の進め方	132
13-2-1	対策を進める上での問題点	132
13-2-2	調査方法	133
13-2-3	防除方法	134
13-2-4	効果判定	137
13-3	維持管理水準	137
第14章 その他の害虫の生態と防除		
14-1	建築物内で見られるその他の害虫類	140
14-2	食品から発生する害虫	140
14-2-1	主な種類	140
14-2-2	対策の進め方	141
14-3	木材から発生する害虫	141
14-3-1	主な種類	141
14-3-2	対策の進め方	142
14-4	畳、敷物から発生する害虫	142
14-4-1	主な種類	142
14-4-2	対策の進め方	143
14-5	ネコノミ	143
14-5-1	習性	143

14-5-2 対策の進め方	144
14-6 トコジラミ	144
14-6-1 習性	144
14-6-2 対策の進め方	144
14-7 アタマジラミ	145
14-7-1 習性	145
14-7-2 対策の進め方	145
14-8 イエヒメアリ	145
14-8-1 習性	145
14-8-2 対策の進め方	146
14-9 カメムシ類	146
14-9-1 主な種類	146
14-9-2 対策の進め方	146
14-10 ユスリカ類	147
14-10-1 主な種類	147
14-10-2 対策の進め方	147